

「イエス・キリストのご生涯。」 ルカ福音書2章4節～17節

神の子、キリストが人となって生まれたのは、貧しい若夫婦の旅の途中で、家畜小屋に飼う葉桶を寝床とする真夜中でした。人間としては、最も惨めで情けない誕生の時ですが、だからこそ、父ヨセフは母マリヤを大事に世話し、幼子を哀れと思う必死な愛情に満たされていました。人間的には、不幸な状況であっても、そこにいる人の状態によって幸せにもなり、不幸にもなりません。この親子は幸せでした。

他には誰もおらず、暗い家畜小屋でしたが、しばらくすると天使たちに「救い主がお生まれになった」(二)ことを告げられた羊飼いたちが集まってきて礼拝しました。「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」(三)。羊飼いたちが「御心に適う人々」だったのです。現代社会の幸福の基準は、経済や富です。しかし、この時、神は、ベツレヘムにいた富んだ人々、平穩な人々が「御心に適う」とはしていません。

誕生後40日の聖めの期間が満ちて、両親はエルサレムに行き、献児式をしますが、その時に「シメオンは幼子を腕に抱き」(ルカ2・26)、「あなたが万民の前に備えられた救いを」(31)と、神をほめたたえました。そして、マリヤに「あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。」(35)と警告します。イエス様の受難と、それを通して人々の心のうちが現れることを預言したのです。預言者アンナも「神に感謝を献げ、エルサレムの贖いを待ち望んでいた全ての人に、この幼子のことを語った。」(38)。

住民登録の為に、親子3人はベツレヘムに戻っていたのでしょうか。そこに東方の博士たちが来て、「幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。」(マタイ2・11)。その後、天使が「ヘロデがこの幼子を探し出して殺そうとしています。」(13)と伝えるので、2年間、エジプトに避難します。ヘロデの死後に帰国し、ナザレに住みます。

この間、神の子の霊の宿ったイエス様と言えども、人間的には乳児なので、意識や悟りはないはずですが、シメオンやアンナなどの霊的で敬虔な神のしもべには、イエス様の霊的な存在はわかったのです。神が人となったことは、ご自分の大能を捨てて、「自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられ」(ピリピ2・7)たこ

となのです。つまり、人として生まれてから、イエス様は神の大能を行使できない無力な存在となられたのです。

ナザレでは、「幼子は成長し、知恵に満ちて逞しくなり、神の恵みがその上にあつた。」(ルカ2・40)とあります。人間でも、その心身の成長には霊性が重要です。親が愛を持って育て、教え、共に過ごし、穢れた生活を営まないことは大事です。

「イエスの両親は、過越しの祭りに毎年エルサレムに行っていた。」(ルカ2・41)。成人の儀式バル・ミツワは13歳になった男子ですが、12歳のイエス様は、3日間も一人残って、「宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり、質問したりしておられ」(46)、「イエスの知恵と答えに驚いていた。」(47)。両親の心配に対して、「わたしが自分の父の家にいるのは当然であることを、ご存じなかったのですか。」(49)と応えられています。イエス様は、既にご自分の神性を自覚しておられ、ご自分の働きの準備をしておられたのです。「イエスは神と人々に慈しまれ、知恵が増し加わり、背丈も伸びて行った。」(52)。

イエス様は神であるから学ぶ必要はないと捉えてはいけません。「キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び、完全な者とされ」(ヘブル5・8.9)と、努力されていたことがわかります。

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいで、折になつた助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」(ヘブル4・15.16)。

努力する習慣を持たない人々が、次第に自らの生活を崩壊させていくのを見ておられます。最近では、部屋に籠ってSNSをして、自分と考えるの似ている人を探し出し、その仮想交流で満足している若い人が多くいるようです。子どもたちも、ゲームやスマホに時間を掛け、勉強や努力をしないことが多いようです。それはサタンの惑わしに乗ってしまったからでしょう。人との交流に失敗したり、疲れたからかもしれない。

イエス・キリストは、わざわざ自らの大能を捨て、長い時間を掛けて人としての苦勞を味わいました。だからこそ、私たちが執り成してくださるのです。私たちは、まず、自らの怠惰を改め、子どもたちや周囲の人々の罪による怠惰を助けてあげる必要があるでしょう。

キリストの生誕を祝いながら、その犠牲に込めることを考えてはいかがでしょうか。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくす咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

ルカ 2:4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

2:5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアとともに登録するためであった。

2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、

2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

2:15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」

2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。

2:17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。

Luk2:4 Joseph also went up from Galilee, out of the city of Nazareth, into Judea, to the city of David, which is called Bethlehem, because he was of the house and lineage of David,

2:5 to be registered with Mary, his betrothed wife, who was with child.

2:6 So it was, that while they were there, the days were completed for her to be delivered.

2:7 And she brought forth her firstborn Son, and wrapped Him in swaddling cloths, and laid Him in a manger, because there was no room for them in the inn.

2:8 Now there were in the same country shepherds living out in the fields, keeping watch over their flock by night.

2:9 And behold, an angel of the Lord stood before them, and the glory of the Lord shone around them, and they were greatly afraid.

2:10 Then the angel said to them, "Do not be afraid, for behold, I bring you good tidings of great joy which will be to all people.

2:11 "For there is born to you this day in the city of David a Savior, who is Christ the Lord.

2:12 "And this will be the sign to you: You will find a Babe wrapped in swaddling cloths, lying in a manger."

2:13 And suddenly there was with the angel a multitude of the heavenly host praising God and saying:

2:14 "Glory to God in the highest, And on earth peace, goodwill toward men!"

2:15 So it was, when the angels had gone away from them into heaven, that the shepherds said to one another, "Let us now go to Bethlehem and see this thing that has come to pass, which the Lord has made known to us."

2:16 And they came with haste and found Mary and Joseph, and the Babe lying in a manger.

2:17 Now when they had seen Him, they made widely known the saying which was told them concerning this Child.